

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)福岡西店舗新築工事	階数	地上3F、地下1F
建設地	福岡県福岡市西区西都1丁目-15	構造	S造
用途地域	第1種住居地域、防火指定なし	平均居住人員	300 人
地域区分	6地域	年間使用時間	6,935 時間/年
建物用途	事務所、物販店、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年8月 0.0	評価の実施日	2015年9月16日
敷地面積	2,422 m ²	作成者	松田 正明
建築面積	1,694 m ²	確認日	2014年7月10日
延床面積	5,973 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★★★★★

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

0 46 92 138 184 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 2.1

Q1 室内環境 Q1のスコア = 2.7

Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.8

Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 1.0

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.1

LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.6

LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	①周囲の建物と調和の取れた建築とした。 ②郊外型店舗として断熱性の、遮音性の高い建物を計画した。	その他 0
Q1 室内環境	①防火規定上は準耐火性能でよいが、外皮性能を上げるためにALC版125tを使用した。 開口部の少ない高い断熱性をもたせている。	Q3 室外環境(敷地内) ①近接建物との離隔や開口部の干渉をさけるように計画した。 ②近隣住宅と敷地間の空間を確保し、建物をセットバックし圧迫感のない様に配慮した。 ③プライバシーを考慮し目隠し壁、防音壁を設置した。
LR1 エネルギー	①省エネ性の考慮し、屋根断熱を行った。 ②高効率型の空調機・照明器具等の設備を導入した。 ③エネルギーの種別毎(電気・ガス・水)にメーターを設置しエネルギー使用量を把握している。	LR3 敷地外環境 ①駐車場は車両が停滞・回遊できるように配置し、敷地前面道路の渋滞抑制を図った。②駐車場の走行音、ライトの光源を外部に漏らさないように外壁を設置した。
Q2 サービス性能	①ゆとりのある階高、天井裏のメンテナンス向上を図っている。②通信・情報設備機器は、浸水の可能性が低い場所に計画をした。 ③防災用の非常用発電機の設置には、水害の少ない屋上	
LR2 資源・マテリアル	①健康や地域環境に配慮した材料を採用 ②内装材はすべてF☆☆☆☆とし有害物質を使用しない。	

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される